

文化は人を元気にする

自分の人生
自分らしく

演劇ファミリーMyu（みゆう）に所属。舞台裏方ボランティアスタッフ『Staff Egg（スタッフエッグ）』としても活動し、主にピンスポットライトを操作する。みのくれこけら落とし住民ミュージカル「田んぼの神様」に出演し、オーブン前からみのくれに携わっている一人。現在は、この秋に公演するみのくれオリジナル住民ミュージカル「RENDА」の稽古に打ち込む、島田由子さんを取材する。



羽鳥地区在住。「主人や家族の協力があって、嫁でありながらこうして自分の好きな事をやらせてもらえることに感謝している」という島田由子さん。

住民ミュージカル「RENDA(れんだ)」出演者

島田 由子さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ
No.15

No.15

笠間市友部出身。母の着物姿や姉の振袖姿を見て「なんてきれいなんだろう」と心をひかれ、姉の振袖を仕立ててくれた従姉の仕事ぶりに感銘を受け、いまの仕事に就くきっかけとなった。女性が手に職を持つことに憧れ、高校二年の春には、「自分は和裁の道に進み、着物を仕立てたい」と決めた。

仕事を始めて間もなく、和裁のコンクールで入賞、自分で決めた道に進み、その世界で認めてもらえたことが嬉しかったという。

結婚してから着付けの資格を取り、自宅で着付け教室を始めて二年。茨城県きもの着付コンサルタント協会の資格試験上位合格者を多数輩出している。

「私が着付けして、その人の大和撫子(やまとなでしこ)としての魅力を出せたとき、日本人の着物姿ってやつぱり素敵だなんて思います」と語る。

現在、着付師としてセレモニーホール四ヶ所と契約(貸衣装・着付・髪予約手配)しているほか、和裁、きもの教室と多忙を極める。

みのゝれとの出会いは「田んぼの神様」への参加。「野手さん(現Myu代表)」から声をかけてもらい、反抗期の娘と、更年期中で体調を崩していた自分が、外に出て同じ話題が持てる良いチャンスだと思いました」。最初は娘を出演者として参加させ、自分はスタッフとして協力しようと思っていたが、『まずはお母さんと一緒にやってみたら』と周りから勧められ、歌やダンスのレッスンを一緒にやっているうちに楽しくなり、「ハマってしまった」。

Myuには小学一年生から八〇代までいるので子どもたちが騒いでいれば叱ってくれる大人がいる。昔の近所付き合いのような環境の中で過ごすうちに「娘との絆も深まった」と感謝している。

「私たち親子が助けてもらった分、多くの人にお返しをしていきたいと思う」と島田さん。Myuの一員として、人への思いやりと優しさが持てる子どもたちの育成に関わっていきたいと考えている。

悩んでいた日々が嘘のように、充実した毎日。

「私はMyuに入って好きなことをやることによって元氣になり、病氣を吹き飛ばした。自分の人生だから自分らしくありたい」と語る島田さんの言葉に、「文化には人を元氣にする力がある」ということを、改めて感じさせられた。

(藤田佐知子)